

渡辺ハウジングOBの皆様と
未来のお客様にお届けする

やすらぎ通信

渡辺ハウジング
03-3959-8743



秋もだんだんと深まり、朝夕は肌寒さをおぼえるこの頃ですが、お元気でお過ごしでしょうか。
今では、あの厳しかった夏の暑さが、まるでウソのよ

うに懐かしく思い出されます。

皆さん、夏のお疲れは出ていませんか？

甘い香りをただよわせていた金木犀は、大型台風による強風のため、すっかり花が落ちてしまいましたが、これからいよいよ秋本番ですね。

お祭りや運動会、スポーツや行楽にも最適なシーズン到来で何かとお忙しいことと思いますが、食事や良い睡眠を心掛けるなど体調管理をしっかりとって楽しい毎日をお過ごしください！！



では今回も、家を建てる際の協力業者さんを紹介させていただきます。

今回は**千家工業**さんです。

「せんやこうぎょう」と読みます。

千家工業さんは左官・外構工事の業者さんです。

仕事の内容は、基礎巾木塗り、モルタル刷毛引き仕上げ、テラス金ごて、カーポート土間打ち、更には境界ブロック積み、門扉やフェンス取り付け等・・・様々な所で登場(?)です。

しかも、ほぼ田中さんお一人が担当ですから、いつも大忙し。



でも室内のクロス同様、門扉やフェンスは、住宅の印象に大きな影響を与えますので気が抜けません。

毎日、細い身体でフル回転。

頭の中は仕事のことがいっぱい過ぎて、本人曰く「3歩歩くと、うっかり忘れてしまうことがあるので、注意してください！」とのこと。

どんなに忙しい時でも真剣に仕事に取り組み、汚い仕事に対しては自分自身許せません。

こんな田中さんの趣味は、釣り。

とは言っても回数は、年にほんの数える程度。

あとは洗濯で終わってしまうそうです。

埼玉県ご出身の田中さんとの

お付き合いも、創業以来ですからずいぶん長くなりました。

これからも頼りにしていますので、

ご協力のほど、よろしく願いいたします。



ハロウィーン

古代ケルトでは、1年は11月1日～10月31日とされており、大晦日にあたる10月31日の夜に祖先のの霊が家族を訪ねてくると信じられていました。時期を同じくして出てくる有害な精霊や魔女から身を守るため、仮面を被り、魔除けの焚き火をしたそう。これにちなみ31日の夜、カボチャをくり抜き、中にローソクを立てたランタンを玄関に飾ったり、魔女やお化けに仮装した子供たちが、「ご馳走をくれないといたずらするよ！」と言いながら近所の家を一軒一軒訪ね歩きます。家庭では、カボチャの料理やお菓子を作ったり子供たちはもらったお菓子を持ち寄ってパーティーを開いたりします。



日本では、クリスマスと同様、娯楽化・商業化され、あくまでもイベントとして楽しむ人達も多くなったようです。

お兄ちゃんの運動会



俺の4歳上の兄は障害者です。

小児マヒで右足が不自由だから、俺が6歳になるまで兄は養護施設にいました。

そして、俺が幼稚園の年長になった時、兄は家に戻り、普通に学校に通い始めました。

兄の通う学校の運動会の日、母と一緒に応援するため学校へ行きました。

兄の学年の徒競争が始まったが、兄は自分の席に座ったままです。

当たり前の話なのだが、幼かった俺は兄が走らない理由がわからず、

「どうしてお兄ちゃんは走らないの？」と母に尋ねた。

けれど、母はただ笑っているだけで答えてくれなかった。

翌年、兄と同じ小学校に入った俺は、又運動会の日を迎えた。

プログラムは進行し、兄の学年の徒競争が始まった。

見学席に座っているはずの兄の姿が無い。

あれ～？

兄は、先生の肩につかまり、スタートラインに立っているではないか。

兄はその時まだ足にギブスをしていた為、歩く姿はとても頼りなかった。

「スタート！」の合図で一斉に走り出す5年生の子供たち。

兄はゆっくりした足取りで歩きだした。

いや一生懸命走っていた。

俺は兄のそんな姿を見ていられなかった。

恥ずかしい、やめてくれと正直思った。

でも、でもその時、グラウンド全体から、大きな大きな拍手が起こったのです。

兄の走る姿に、みんなが声援を送ってくれている。

俺も思わずみんなに合わせて拍手をいていた。

兄がゴールした瞬間、涙が出た。

あとで聞いたんだけど、俺が以前、

「どうしてお兄ちゃんは走らないの？」と母に聞いたことがあったことを兄に話していたらしい。

だから、兄は俺のために走ってくれたのかもしれない・・・。



照れ臭いので、兄に聞いたことはないけれどそれは胸の中にしまっておこうと思う。

「ありがとう、お兄ちゃん」

運動会の時期になるといつもよみがえる大切な思い出を聞かせていただきました。

「編集後記」

秋空の下、お祭りやら運動会など楽しい時間を過ごされた方も多いことでしょう

東京でのオリンピック開催が決まり、子供たちの夢や希望が大きく広がりました。

未だ復興半ばの被災地の方たちの元にも、笑顔の聖火がが届くといいですね。

皆が一つになって、「おもてなし」の心で大会が成功することを今から願います。

今月もお読みいただき有難うございました。

ご意見・ご感想等を是非お聞かせください。



編集責任者

渡辺 田鶴子